

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

中2

福岡県立門司学園中学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	併設型中高一貫教育校として、生徒一人一人の豊かな人生実現を支えるべく、中高それぞれの教員が相互に連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
(成果) 「新たな学びプロジェクト」を通してICTの活用が進み、魅力ある分かる授業、学力を高める授業に向けた授業改善、やる気を生み出す評価の在り方についての改善を進めることができた。また、生徒一人一人に対応した細やかな進路指導により14期生は45名(39.1%)が国立大学に現役合格を果たし全体に対する割合が過去最高並みの記録となった。さらに、中高生徒会が連携を図り、挨拶の励行やコロナ禍での行事の企画・運営にオンライン等を積極的に取り入れ、生徒の主体性を育む中高一貫教育校ならではの教育活動の実現に努めることができた。 (課題) 一人一台タブレット端末の活用について、教務課、ICT推進課、研修課と連携し、わかりやすい授業構築に向けて研鑽を積みたい。生徒の学力向上と進路実現にむけたキャリア教育の充実を目指したい。また、6年間を見据えた中高一貫教育の実現に向けて、中高合同研修会や合同教科会議において、大学入試改革に伴う対応や新学習指導要領実施について最新の情報を共有し、本校の課題を明確にすることで教育活動の充実を図りたい。また、指導方法・授業評価方法の研究に努め、魅力ある分かる授業、学力を高める深みのある授業を展開することで、生徒の学びに向かう意欲をより高めたい。その上で魅力ある学校づくりを一層推進し、中学校志望者の増加、高校への内進・外進の進学者の増加を図り、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進していきたい。	人心を育てる道徳教育・人権教育の充実	・自他人の権意識を再認識し、お互いを尊重し、気持ちよく学校生活を送ることができる学習環境の整備を一層推進する。 ・人命軽視の風潮を根絶し、いじめ、中途退学、不登校のない学校づくりを実践する。		
	「夢」をもち、「挨拶」のできる生徒の育成	・生徒各人に「夢」を持たせ、意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせる。 ・異年齢集団における「挨拶」の大切さに気づかせ、中高一貫教育校ならではの「長幼の序」の精神を涵養する。		
	キャリア教育・進路指導の充実と希望が達成できる進路保障	・中高一貫教育の制度を十分活用し、中学校、高等学校におけるキャリア教育、進路学習の有機的な関連づけを強化する。 ・進路指導のより一層の強化、充実を図り、生徒一人一人の希望進路達成のための指導力を強化する。 ・生徒に志を持たせ、自ら意欲的に学ぶ生徒を育成する。		
	学力向上策実践と授業改善	・6年間を見通した教育課程を充実発展させることにより、個々の生徒の進路実現を支える確かな学力を身につけさせる。 ・一人一台タブレット端末を活用し、指導方法・授業評価方法の研究に取り組み、魅力ある分かる授業、学力を高める授業を展開する。		
	門司学園の魅力を積極的に発信	・生徒が門司学園で生き生きと学校生活を送っている姿や希望進路を実現させている実績をこれまで以上に積極的に発信する。 ・学校説明会の内容を更に充実させ、学校HPをより魅力あるものに作り変え、更新を頻繁に行う。中学校訪問の時期や内容を工夫し、多くの方に門司学園の魅力を知らせてもらえるように努める。		
20周年記念行事の成功	・体育大会、学園祭などの既存の学校行事を20周年記念大会等とし、記念に残る工夫を行う。 ・20年の節目の行事を通し、これからの門司学園のさらなる発展に貢献する意識を育てる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	6年間を見通した教科指導の展開	デジタル教科書の効果的な利用や、生徒用タブレットなどのICT機器を積極的に用いた授業を推進する。		
	地域から信頼される魅力ある学校づくり	中高教員の相互授業乗り入れを推進し、中高の接続を円滑に図る。 学校行事や道徳の授業を通して、人心を育てる道徳教育の充実を図る。 学習活動や学校行事等で、学年横断的な異年齢交流を活性化させる。		
	授業改善による教科指導力向上	年2回授業アンケートを実施し、成果と課題を明らかにして授業改善を図る。 研究授業、公開授業について、中高相互授業参観を行う。		
生徒指導部	人権尊重の意識向上と学習に専念できる集団作りの育成	「学校いじめ防止基本方針」に基づいた未然防止・早期発見の取組を強化する。 生徒会を中心とした人権尊重の精神を高め合う活動を支援する。		
	基本的生活習慣や規範意識の向上	時間前行動や朝の挨拶、身だしなみの意識の更なる向上を図る。 携帯電話の使い方や公共交通機関の乗車に関するマナー教育に取り組む。		
	生徒の心身の健康増進	生徒の健康課題を把握し、健康教育の充実と健康維持増進を図る。 心の問題の早期発見・対応に努める。		
進路指導部	6年間を見通した進路指導	中高合同教科会議において、中学校の外部模試のデータを共有し分析を行う。 中学3年生のトップゼミを中高職員で実施し、大学入試を意識させる。		
	生徒の進路意識の向上	門司学ライブなど、職業観を育む行事を実施する。 中学3年生で探究活動の導入指導を行い、中高接続を図る。		
	自ら成長できる生徒の育成	キャリアパスポートを活用し、自分の生活を振り返ると同時に、目標を持って生活させる。 オンライン学習ツールを活用し、自宅学習習慣を身につけさせる。		
人権教育	人権尊重の精神を養い、高い人権意識を持つ生徒の育成	学活や総合的な学習の時間において人権意識の向上につながる授業を計画する。 特設人権教育を通して、人権尊重の視点に立った教育活動を実践する。		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策